

## 令和5年度学校教育自己診断分析結果

### ○全体的な内容

本校では、泉大津高校の『ねがい』『どんな社会でも揺るがない土台「心幹」を持ち、他者とコミュニケーションをとりながら、自分の人生を、社会を豊かにできる一人前になろう』に基づき、すべての教育活動を実践している。「学校は、「泉大津高校の『ねがい』」に向かう教育活動を行っている。」の質問項目においては、保護者の肯定的な回答は78%と高評価であったが、生徒は70%に留まっている。今後も「泉大津高校の『ねがい』」を広く周知し、継続的に教育活動を行っていくことで、より一層充実した教育活動が展開することができると考えている。

また、昨年度課題であった「学校は、1人1台端末を効果的に活用している」が67%から83%に飛躍的に伸びた。授業充実研修において、1人1台端末を活用した授業展開について全教員で考えたことから、積極的に授業で活用する教員も増え、授業をはじめとするあらゆる教育活動において、生徒が端末を活用するようになったからであると考えられる。

学校行事への満足度は文化祭・体育祭ともに肯定的な回答が85%となっており、昨年80%を下回った課題を生徒が積極的に取り組めるように工夫した結果が出ていると考えられる。中でも土曜開催、外部の招待、食品バザーといったコロナ禍の影響で取りやめていた内容を再開したことが大きかったと考えられる。引き続き各部署と連携を図りながら、生徒が主体的に取り組めるより良い学校行事をめざしていきたいと考えている。

「学校は、保護者の相談に適切に応じてくれる」や「学校は、将来の進路や職業などについて適切な情報提供を行っている」の質問項目において、肯定的な回答が85%以上となっている。保護者懇談をはじめとする日頃からの様々な場面において、保護者と小まめに情報共有を行っていることが反映されたと考えられる。一方で、「何とも言えない、わからない」の回答率が高く、情報発信については課題があると考えられる。引き続き、保護者への教育情報の提供に尽力していきたい。

○各分掌より （ ）内の番号は質問番号を示しています。

#### 【教務部】

生徒(4)「自分が学びたい科目を選択することができる。」

⇒ 生徒のニーズに合った科目の設定ができおり、希望に沿った選択ができるようになっている。

生徒(5)「情報機器の利用や実験・実習など、体験的な授業が充実している。」

⇒ 授業は講義形式の授業だけではなく、様々な工夫がなされている。

生徒(8)「評価の仕方や基準が事前に示されており、評価について納得できる。」

⇒ 評価については、教員から生徒へと丁寧な共有ができている。

生徒(9)「(参加したことがある人のみ) 授業以外の講習は満足できる。」

⇒ 3年生は夏期講習においては多様な講座を開講しているため、生徒のニーズに合致していると考えられる。

保護者(5)「先生は、子どもの評価を適切・公平に行っている。」

⇒ 評価について、納得のいく評価を実施できている。

#### 【生徒指導部】

保護者(7)「学校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。」

⇒ 支援教育コーディネーターやSC、SSWとの連携や保護者連絡を密に行っているためと考えられる。

保護者(9)「学校の生徒指導の方針に共感できる。」

⇒ 日々の指導において、保護者連絡を密に行っているため多くの方に理解をいただけた。

保護者(13)「学校は、子どもに生命を大切にすることや社会ルールを守る態度を育てようとしている。」

⇒ 日々の声掛けが生徒を通して保護者の方にも伝わっていると考えられる。

生徒(11)「先生は、いじめなど私たちが困っていることに真剣に対応してくれる。」

⇒ 教員が真摯に生徒と向き合っていると考えられる。

生徒(14)「学校生活についての先生の指導には納得できる。」、(25)「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。」

⇒ 学校や社会のルールを理解して生活できるように粘り強く生徒指導を行っていく必要がある。単にルールで縛るのではなく、指導の背景にある理由や意図を説明しながら指導を行っていくことが大切である。

#### 【生徒会指導部】

生徒(20)「文化祭は楽しく行えるよう工夫されている。」、(21)「体育祭は楽しく行えるよう工夫されている。」

⇒ 土曜開催・外部の招待・食品バザーといったコロナ禍の影響で縮小していた企画の復活が肯定的意見につながったと考えられる。体育祭も雨天によるプログラム変更はあったものの、競技内容を充実させることで生徒に理解を得られたと思う。

生徒(23)「生徒会活動は活発だと思う。」

⇒ 前期では執行部が目立って表に出る機会が少なかった。彼らが活躍できる場を準備していくようにしたい。後期では執行部が率先してあいさつ運動や美化活動に取り組んでいる。このまま継続するように促したい。

生徒(24)「部活動は活発だと思う。」

⇒ 1, 2年生の部活動加入率が低く、活動しにくい部が増えてきている。部活動紹介や体験入部など、部員を新規獲得できるような活動を準備していきたい。

#### 【進路指導部】

生徒(15)「学校は、進路についての情報を知らせてくれる。」

⇒ 進路の情報提供について、生徒は86%、保護者(11)は74%となっている。生徒には進路HRや担任から進路情報を直接伝える機会が多いため行き届いているようだが、一部保護者には伝わりにくい面もあり、進路行事のお知らせは、適宜メール等を活用し、周知していく必要があると感じられる。

生徒(16)「将来の進路や生き方について考える機会がある。」

⇒ 将来の生き方や進路について考える機会は上昇して85%を超えた。3年間の様々な進路行事を通して、多くの生徒が進路に向き合うきっかけとなっており、引き続きこの水準を維持できるような工夫が必要である。

生徒(17)「進路指導室(資料室)は利用しやすい。」

⇒ R3、R4の2年間は3年生のフロアが進路指導室(資料室)と同じフロアではなかったため、進路資料室の場所を知らない生徒も少なからずいた。今後も周知が必要である。また、タブレットを利用して進路先情報を得られることが増えたため、資料室に来なくてもある程度の情報が入手しやすい状況ができたのは生徒にとって利便性が向上したといえる。

#### 【保健総務部】

生徒(28)「学校で、事件・地震や火災などが起こった場合、どう行動したらよいか、知らされている。」

⇒ コロナ禍も終わり、避難訓練等を実施し、生徒への浸透ができている。

保護者(18)「PTA活動に参加することがある。」

⇒ 緩やかに減少している。PTA活動への理解が得られるように努めていきたい。